

# 麗澤大学

50 REITAKU UNIVERSITY Anniversary 75 HIROIKE INSTITUTE of EDUCATION

# NEWS

2009(平成21年) 10/13 No.85

## まんりょう

古巣の日銀を経て、本学で金融論を教えるようになって早いもので4年目になる。先日、ゼミの1期生のMさんから近況を知らせるメールがあった。地方銀行で投信や保険の販売をやっているが、最近連続して大口案件を獲得して、自信が

つきましたとのこと。卒業生の活躍ぶりを知ること、は、教師にとって大きな喜びである。

中島ゼミでは、毎年、夏に2泊3日の合宿を行って

がった合宿となった。いつもは3年生と4年生は別々にゼミを行っているが、合宿では合同でプレゼンを行うので、いつになく緊張感が漂っている。上級生や下

級生から、鋭い質問を受けるのではないかと恐れて、準備にもおのずと力が入る。

初日は、夜半までプレゼンを行う。しかし、それで終わる訳もなく、部屋に引き揚げてからも、深夜までゼミ生同士での話が続く。

## 教師冥利

2日目は、屋外でバーベキュー。力こぶたくましく鉄板の前で腕を振るうもの、食材を焼く順番を仕切るもの、黙々とお皿を並べて準備をするもの、専ら食べる方に回るものなど、いろいろと個性が出て楽しい。普段のゼミではおとなしいの

に、こういう場面では「鉄板の鬼」となって主役を担うつわものもいる。

大いに飲んで語り合うことも合宿の大きな目的である。バイトの話や旅行の話、そして3年生が一番興味があるのが4年生の就職活動での体験談である。留学生

からは、日本とのカルチャーギャップの話や戦車を運転した軍隊経験などの話も出て、興味は尽きない。

例年、3年生からは「4年生はすごい。知識は深いし、プレゼン資料は工夫されているし、発表は堂々たるもの。1年後に自分たちはあそこまで行けるのだろうか」という感想が聞かれる。しかし、その1年後、4年生になった彼らは、立派に合宿をリードし、3年生から「4年生はすごい」と言われるようになっていく。ゼミの活動が成長の場となっているのであるとすれば、これもまた、教師として大きな喜びである。

経済学部教授 中島 真志